

千葉市感染症発生動向調査情報

2013年 第46週 (11/11-11/17) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		46週	45週	44週	43週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	17	18
	眼科	4	5	4	5
	インフルエンザ*	28	28	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	11/11-11/17	11/4-11/10	10/28-11/3	10/21-10/27	11/4-11/10
			46週	45週	44週	43週	45週
小児科	RSウイルス感染症		9	7	14	9	98
	咽頭結膜熱		2	0	2	3	18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		20	13	13	22	196
	感染性胃腸炎	○	79	45	44	41	422
	水痘	○	14	10	8	8	81
	手足口病		11	17	19	36	89
	伝染性紅斑		2	0	0	0	4
	突発性発しん		10	6	9	19	49
	百日咳		0	0	1	0	6
	ヘルパンギーナ		1	0	2	0	6
	流行性耳下腺炎		0	4	3	2	40
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	8	0	0	3	28
眼科	急性出血性結膜炎		1	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		1	1	1	2	21
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	2	3
	マイコプラズマ肺炎		1	0	3	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	6	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(16件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳未満	ツベルクリン反応等	結核	女性	10歳未満	IGRA検査等
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	結核	女性	20歳代	IGRA検査
結核	男性	20歳代	胸水ADA値の上昇	結核	女性	30歳代	IGRA検査
結核	男性	30歳代	IGRA検査	結核	女性	40歳代	画像診断
結核	男性	30歳代	IGRA検査	結核	女性	40歳代	IGRA検査
結核	男性	60歳代	IGRA検査	結核	女性	50歳代	病原体等の検出等
結核	男性	70歳代	IGRA検査	デング熱	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出等
結核	男性	80歳代	病原体の検出	レジオネラ症	男性	70歳代	病原体抗原の検出

・結核14件(250)、デング熱1件(4)、レジオネラ症1件(8)の報告があった。

()内は2013年累積件数

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第46週のコメント

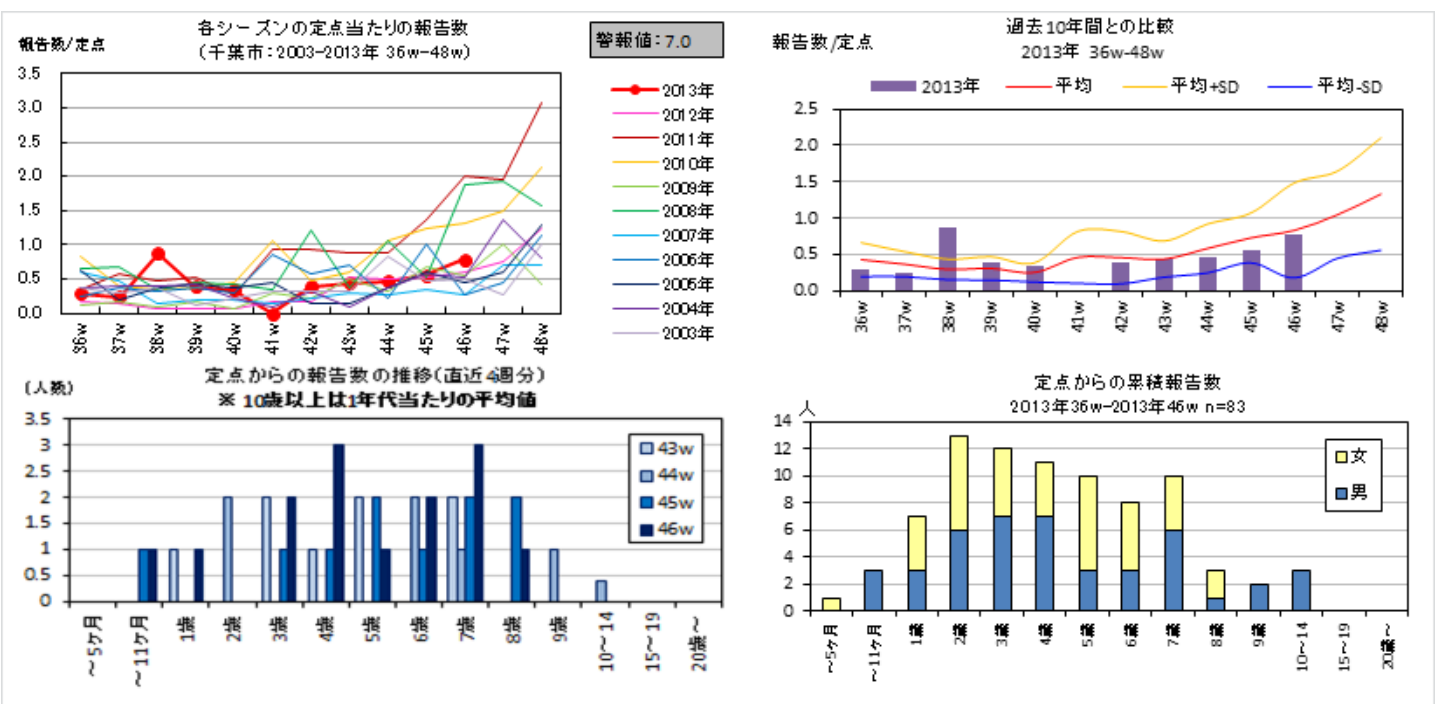
＜感染性胃腸炎＞先週より増加し4.39となった。過去10年の同時期と比べると少ない。
 ＜水痘＞先週より増加し0.56となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。

トピック

＜水痘＞

2013年の全国レベルの第45週現在は、過去6年間の同時期と比べて少なめの状況となっています。都道府県別では岩手県、新潟県、福井県の順で多くなっています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市は第42週から連続して増加しており、第46週現在も前週より増加し0.78となりました。過去10年間の同時期と比べるとやや少なめとなっています。区別の発生状況は、緑区で最も多く、同区の3歳及び7歳で多く発生しています。

水痘は、水痘帯状疱疹ウイルスによって起こる急性の伝染性疾患です。幼児期から学童期前半に多く、冬～春に流行し、夏～初秋には減少する傾向があります。多くが10歳までに感染し、殆どの成人は抗体を持っています。感染力は強く、家族内接触における発症率は80～90%となっています。本症の潜伏期は10～21日(多くは2週間程度)で、軽い発熱、倦怠感、発疹が最初の症状です。発疹は紅斑から始まり、2～3日のうちに水疱、膿疱、痂皮の順に進行しますが、3～4日間程は発疹が新たに発生するため、これら各段階の発疹が同時に混在するのが特徴です。発疹の好発部位は体や顔面で四肢には少なく、体の中心寄りに分布します。発疹は掻痒感が強く、水疱中には多数のウイルスが存在します。合併症の危険性は年齢により異なり、健康な子供ではあまりみられませんが、1歳以下の乳幼児と15歳以上では高くなります。成人ではより重症になり、合併症の頻度も高くなります。また、妊婦が罹ると重症化の傾向があります。予防にはワクチンが有効です。水痘ワクチンを接種しても水痘患者との接触によって6～12%の割合で水痘を発症する場合がありますが、発疹の数は少なく症状の程度も軽く済みます。また、水痘が流行している施設や家族内での予防については、患者との接触後できるだけ早く、少なくとも72時間以内にワクチンを緊急接種することにより、発症の防止、症状の軽症化が期待できます。



＜インフルエンザ＞

2013年の全国レベル第45週現在は、過去6年間の同時期と比べると少ない状況となっています。都道府県別では、沖縄県、愛媛県、岐阜県の順で発生が多く見られます。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第46週現在は、過去10年間の同時期と比べると少ない状況ですが、緑区でまとまった発生報告があり、定点あたりの報告数は0.29となりました。同区の30歳代女性で最多となっている他、1歳、4歳及び5歳で発生しています。今シーズンの型別迅速診断結果の累積は、A型が69.2%となっています。今後気候が寒冷化することにより、流行シーズンに入っていくことから、感染防止の注意が必要です。

ワクチンは、接種してから効果が表れるまで2～3週間かかることとされていることから、早目の対策を心がけましょう。

予防として、家庭内のみならず、外出先においてもこまめに手を洗うなど基本的な予防の励行のほか、十分な栄養と睡眠をとるなど普段から免疫力を高めておくことも大切です。また、感染した場合は、周囲へ感染を広げないよう、外出を控える他、マスクを着用する等の咳エチケットを守ることが重要です。

